

イスラエル化粧品「ラリン」の国内代理店を子会社化

TSIが再びM&A攻勢

TSIホールディングスは、イスラエルの自然派化粧品「ラリン」の日本代理店であるラリン・ジャパン(福岡市、トニー・レヴィ社長)の株式の70%を取得し、子会社化する。買収金額は非公開。同社が中期経営計画で掲げるM&A戦略の一環であり、3月に買収した婦人服専門店アナデイスとシェ・アナンに続くもの。コスメ市場の中でもオーガニック・自然派化粧品はポテンシャルが大きいと見て、TSIグループの店舗開発力を生かした多店舗化に乗り出す。日本における「ラリン」事業は現在、20店舗で売上高10億円。これを5年後には50店舗で30億円

に拡大させる計画だ。

1999年に誕生した「ラリン」はイスラエルの死海のミネラルやシードオイルを用いたオーガニック・自然派化粧品のブランド。2006年にイスラエルの大手アパレル、FOXグループの傘下に入ってから急速に店舗数を広げた。イスラエル国内での100店舗の直営店網は、同国生まれで日本でも知られる「サボン」を上回る規模。マドンナをはじめとしたセレブリティの愛用者も多いことから、欧米での事業も拡大しつつある。日本の代理店であるラリン・ジャパンは11年2月に日本1号店を東京・表参道にオープンして以来、年2~5店舗のペースでファッションビルなどに新店を出してきた。なお、ラリン・ジャパンはイスラエル本社との資本関係はなく、日本における独占輸入販売権を結んでいる。

今回の買収の指揮を執ったTSIの齋藤匡司・社長は「オーガニック・自然派化粧品は成長市場というだけでなく、当社のファッション事業とも親和性がある。また衣料品と違って天候や景気に左右されにくく、安定した収益を維持できる」と説明する。昨年5月に就任した齋藤社長は、化粧品世界最大手であるロレアルの日本法人とシンガ

ポール法人で要職を務めた経験があり、化粧品事業とアジア市場に精通している。

買収後は「ラリン」がこれまで手薄だった広域型ショッピングセンターなどにも出店する。SPAやエステ、ヘアサロンへの売り込みやeコマースも強化していく。また、ラリン・ジャパンの子会社が運営するハワイでの販売を強化するとともに、販売権を持つ香港、優先販売権の交渉を進めているシンガポール、マレーシア、インドネシアなど海外販売にも力を入れていく考えだ。

東京スタイルとサンエー・インターナショナルの統合によって11年に誕生したTSIは、赤字体質を改善するため、昨年まで大規模なリストラを行ってきた。その結果、14年度、15年度と営業黒字を達成。4月に発表した中期経営3カ年計画では、攻めの姿勢を鮮明にし、約200億円を国内外のM&Aに充てる。齋藤社長は「(3月に買収した)アナデイスとシェ・アナンが一の矢、今回の『ラリン』が二の矢。他にもASEAN(東南アジア諸国連合)アパレルのM&A



表参道の「ラリン」旗艦店。死海のミネラルを用いた製品が人気を集める

や越境ECの提携、欧米ブランドの国内販売権の取得など、新しい成長戦略に関して「六の矢くらいまで具体的に準備している」と明かす。

TSIは統合した11年前後にエレファントとローズバッド、アルページユなど積極的なM&Aで業容を拡大してきたが、収益悪化が表面化してからは投資を控えていた。今後は昨年7月に資本・業務提携を結んだ日本政策投資銀行のサポートを受け、海外市場を視野に入れたM&Aに再び本腰を入れることになる。



齋藤匡司 / TSIホールディングス社長